

## 総合的な学習の時間 学習指導案略

- 1 単 元 名 わたしにできる福祉
- 2 ね ら い 福祉に関する課題を見つけ、今自分にできることをしようと  
する態度を育てる。
- 3 人権教育の内容 人間関係の活性化 3—(2)—ア
- 4 展 開

学習活動	指導上の留意点	備考
<p>1 車いす体験やアイマスク体験で不自由を感じたことをふり返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 段差が怖かった</li> <li>・ スムーズな移動が難しかった</li> <li>・ 一人では動けない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 車いす体験やアイマスク体験で実感して不自由さを想起させ、それを解決するための行動を考えられるようにする。</li> </ul>	活動中の写真
<p>2 動くことや見ることに不自由さを感じる立場や場面について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 怪我をしているときは段差の上り下りが大変</li> <li>・ 兄弟のベビーカーを押すときに困ったことがある</li> <li>・ 子どもや外国人も字が読めないとどこにいるのか分からない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障害のある方だけに焦点化するのではなく、「動くことや見ることに課題がある状況」を問い、誰もが不自由さを経験する可能性があることに気付かせる。</li> <li>・ 体験で不自由を感じたことを、日常生活に置き換えて考えさせ、状況や立場によって、同じような不自由さを感じることを押さえる。</li> </ul>	
<p>3 誰もができるだけ不自由を感じずに生活するために自分にできることを考える。</p> <p>(1) 個人で考える</p> <p>(2) グループで考える</p> <p>(3) 全体で交流する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 困っている人に優しく声をかける</li> <li>・ 机の横に余計なものをかけない</li> <li>・ 道いっぱい広がって歩かない</li> <li>・ 電車などでは必要な人に席を譲る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 不自由さを解消するためには物を工夫すればよいという視点ではなく、自分自身の行動を少し変えるという視点を与え、当事者意識をもたせる。</li> <li>・ 日ごろからできることはたくさんあることに気付かせる。</li> <li>・ 全体交流の前にグループで話し合わせることで、個人では思いつかなかった様々な場面を想像して自分にできることを考えられるようにする。</li> </ul>	ホワイイトボード
<p>4 学習のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後は、すごしやすい街になるようにどのような工夫があるのかを調べていくことを伝える。</li> </ul>	

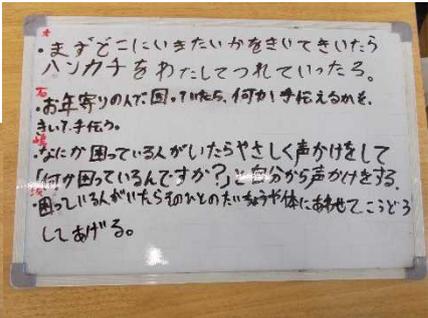
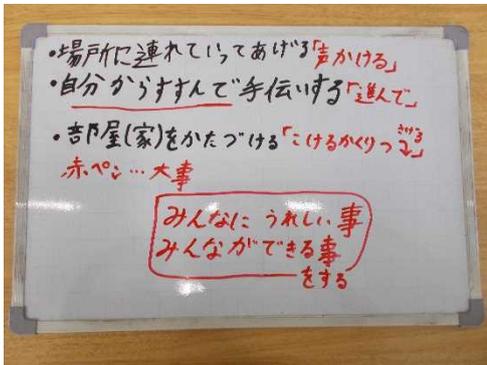
[別紙②]

学習の様子



車いす、アイマスク体験で不自由に感じたことや不自由さを感じる場面について全体で交流する様子

グループで自分たちにできることを考えている様子



児童がグループごとにまとめたホワイトボード

学習を通じた感想

- 障害のある人やお年寄りだけでなく、困っている友だちにも声をかけていきたい。
- 自分一人では難しくても、同じ思いをもった友だちと一緒に声をかけることはできると思った。
- 普段から登校班の低学年にやさしくかけることも大切だと感じた。
- みんなが過ごしやすくなるように、自分の机の周りをきれいにしておこうと思う。